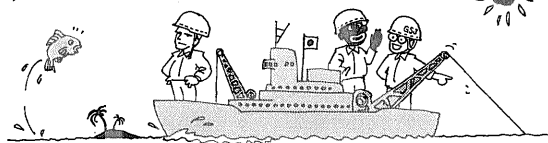


海外盛だより



No. 7

地下水コース研修無事終了 昨年12月11日 昭和60年度地下水資源開発集団研修は 関係各位の御支援・御協力を得て無事終了した。わずか4か月の期間であったが サブ・コースリーダーとして 研修員とともに過した私なりの雑感を 思いつくままに述べてみたい。

男性研修員の多くはフェミニストであり かつ女性研修員はそれをよし(当然?)としていた。かくいう私もフェミニストとして認知された。ちなみに 研修員は11か国11名 うち3名が女性であった。

研修員同志は たとえ10才以上年齢が離れていてもすぐにファーストネームで呼び合っていたが 彼等には成年日本人一般の“姓 プラス さん”スタイル(例えばイシイさん)は 奇妙に聞こえたらしい。研修初期の頃 ファーストネームに Mr. あるいは Mrs. などをつけて 彼等と呼んだところ 間違っていると指摘された。以後 原則として“ファーストネーム プラス さん”で押し通した。「奥さんを何て呼んでいるの?」との質問に 私は“おーい”であると答えた。彼等は 暫くの間不思議な顔をしていた。

彼等の最大の悩みは日本語であった。彼等が日本語で話しかけてきたら 迷わず日本語で返すのがよいと感じた。短い滞在期間でも 彼等は日本語を勉強したいと願っている。二番目の悩みは食べ物であった。彼等と食事をする時には 七味唐辛子・胡椒・ソース・塩・醤油・タバスコなどのうち 最低2種類は用意しておかなければならない。

旅行の際 あるいは いざ帰国と言う時 荷物は女性研修員の方が 男性研修員のそれよりも 大きく重い。バッグの中身は知らないが この現象は万国共通か? 荷物の大小・軽重はともかくとして 彼等が無事に帰国し 友好親善を結べたのが 何よりの収穫だった。

最後に お世話になった皆様に対し 彼等に代わり 彼等の母国語を借りて 心よりお礼申し上げます。ドノバ(バングラデシュ) ムーチャス グラシヤス(ボリビア・パナマ) ムイトオブリガード(ブラジル) メダウオアセピー(ガーナ) シュ克蘭(イラク) ミサオトラベトウサカ(マダガスカル) ダンヤバート(ネパール) サラマツト(フィリピン) コープクン(タイ) テシエキュールエデルム(トルコ) そして 有難うございました。(石井)

沿海コースも終了 昨年6月17日開講した昭和60年度沿海鉱物資源探査集団研修は 12月23日無事終了致しました。今回も各研修員は多くの研修成果を修めるとともに 我が国に対する新たな認識を得ることができたようです。関係者各位の御支援・御協力に対し厚く御礼申し上げます。

私自身 過去に白嶺丸での船上実習などで 研修員と接する機会があったものの サブコースリーダーとして 8か国9人の研修員と 毎日一緒に過ごすのは初めてのことで まず とまどったのは言葉でした。ただでさえ不十分なヒアリングで 8種類の英語を聞き分けなければならず 最初は夢の中まで訳のわからない横文字が出てきたりもしました。次第に慣れては来ましたが 言葉の足りない分は課外の宴会コースを開き 酒を片手に一緒に歌い 研修員との友好を深めました。さすが エンカイ・コースだけあって 研修員のほとんどは ギター片手に歌ったり 中には踊りの上手な人もいました。「オフショア・プロスペクティング・ソング」という本コースのテーマソングもでき 将来 七つの海でこの歌を耳にすることができるかもしれません。

サヨナラ・パーティーで ある研修員は“一気飲み”に挑戦 あえなくダウンしてしまい その酔いの甘さと辛さを充分体得したようです。いまや“一気”は国際語として通用するようになってまいりました。彼等が それぞれの国へ帰り “一気” “一気”と声を上げながら 海底調査用のロープを引き上げる姿が目に見え



写真1 地下水コース修了証授与 垣見所長(右)から各研修員(写真中央はネパールのラマさん)に手渡されます。4か月間の努力が実を結ぶ 晴れ晴れしい一瞬です。

びます。そしてこの研修で得た成果を大いに役立ててくれるものと期待します。

200海里経済水域が主張されている昨今自由に調査研究が行える空間は次第に狭められつつあります。彼等の国々との友好を深めることは今後の我が国の海洋地質調査の発展にとっても非常に重要であり沿海鉱物資源探査コースはその基盤となるものと考えます。今後とも本コースがますます発展し充実して行くことを願う次第です。(木下)

**タイトル・イラスト変更** 本コラムのタイトルに使用しているイラストは当所の海外活動のすべてを象徴的に表ししかも海域から陸域さらに地下深部へと拡大する地球科学の研究対象をすべて網羅するものがよいのですがちょっと無理な注文です。そこで昨年までは陸域を今年(前号)からは海域調査を主題に扱ってみました。イラストの担当はプロ並みの腕前を持つ総務部河村幸男氏に今回もお願いしご覧の通りのすてきな作品ができました。

本誌における一服の清涼剤として本コラムをさらに充実し親しみやすいものにするためにこのイラストが果たす役割は非常に大きいと思います。河村氏の御協力に対し多大の感謝を述べさせていただきます。

(田口)

**広州 CCOP 総会余録** 中国のホテルはなかなかモダンでボーイやメイドの服装やサービスぶりを見ると香港やシンガポールに居るような錯覚をおぼえます。街をゆく人々の服装もかなりカラフルで人民服などはあまりみかけなくなりました。中国側の準備はなかなか良くゆきとどいていて中国人のホスピタリティの良いのには驚きました。いろいろなパーティが開かれ山海の珍味珍酒を堪能いたしました。

広東省では蛇料理や猫料理が有名だときいておりましたが一度こちらに駐在しているアラビア石油と石油資源のgeologistsの案内で蛇餐館という蛇料理店にゆきました。入口には各種の蛇のショーウィンドのある店で最初に出てきたのは竜虎鳳スープといういかめしい名前のスープでした。竜が蛇虎が猫鳳凰が鶏という次第でウドン状の蛇肉以外はどれが虎でどれが鳳凰か見わけがつきませんでした。味はみんな鶏みたいでした。裏には恐ろしげな蛇皮のついた薄い切身の上にエビ団子を乗せて天プラ状に揚げたものやいかの切身を想わせる蛇の白身と青菜を炒めた野菜炒めスポン料理などおっかなびっくり食べてみましたがいずれも味は結構でした。



写真2 沿海コースさよならパーティー 技術レポート提出後各研修員はコース関係者全員と肩を組んで歌を歌い7か月の研修期間中に育んできた友情を深めました。

一番びっくりしたのは蛇酒でした。コックがコブラその他の毒蛇が一杯つまった金網かごを持ってきて一匹ずつ取り出しては足で蛇の頭をふんづけお腹をしごいて胆嚢の位置をさぐり当てハサミの先で一吋お腹をさいてきゅっとおさえると大豆粒くらいの胆嚢が出てきます。これをハサミで切り取って皿の上のせ別の蛇をとり出しては同じ作業をくり返し3匹分の胆嚢がたまったところで小さな杯に胆汁を絞り出してマオタイ酒を注いでかきまぜるとエメラルドグリーンのきれいな蛇酒ができます。とても健康に良いとのことでしたが飲んでみる勇気がありませんでした。

漢方薬のマーケットではサソリ・蛇・ムカデ・蟬の子などの干物が南京袋に一杯つめて売っています。

昔落語で中国人は机と椅子の脚以外は何でも食べるなんて言っていたのを想い出して笑ってしまいました。 <在バンコク CCOP 長期派遣専門家> (平山 次郎)

田口さん御苦勞様、遠藤さんをよろしく 海外室の総括担当として活躍していた田口雄作さんが1月1日付でもとの環境地質部へ戻り代わりに鉱床部鉱物研究課の遠藤祐二さんが後任として来られました。1年2か月半の短い期間にもかかわらず海外室にまた地質調査所の国際活動に多くの新風を吹き込んで下さった田口さんに心から御苦勞様と申し上げます。

また新任の遠藤さんは55年度のチリ在勤57年度の国際研究協力課併任など国際協力の分野のベテランの一人です。何分にもよろしく御支援下さるようお願い致します。(藤井)